

1. 主旨

ハード、ソフトの進歩により、3次元計測へのUAV（unmanned aerial vehicle 略称ドローン）活用が急速に広がってきました。地理地形の3次元マッピング、道路、交通、橋梁など社会インフラ設備の維持管理、災害対策と復旧などにも大きな効果が得られるようになり、さまざまなツール、サービスが登場してきています。

SPARJが開催する第3回は、展示・会議ともジャパン・ドローン展の中の一部として実施します。約1万人の来場者が予測され、広くアピールする場としてご利用ください。

2. 開催日：2018年3月22-24日

3. 場所：幕張メッセ

4. 主催：（一社）日本UAS産業振興協議会(JUIDA)

5. URL：<http://www.japan-drone.com/>

6. 出展参加問合せ

Japan Drone 運営事務局(株式会社スペースメディア
アジャパン内)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル

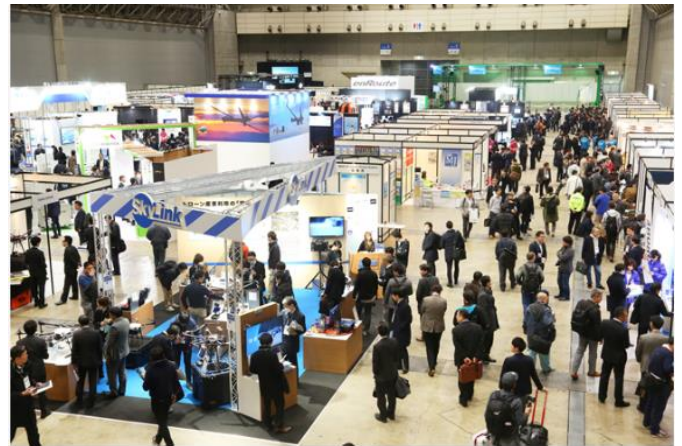
TEL：03-3512-5672 FAX：03-3512-5680

E-mail：japan-drone@smj.co.jp

7. 「3D計測&活用ゾーン」問合せは スパークポイントリサーチ

河村 koji@sparj.com 045-482-3073 まで

URL：<http://www.sparj.com>



主催者



テーマ主催（3D計測&活用）



・早期出展申込のおすすめ

2017-10-31 までに正式お申込みされれば、いくつかの特典が用意されています。

・出展は「3D計測&活用ゾーン希望」として申し込みください。

第3回UAV 3D計測・活用フォーラム

JUIDA主催 Japan Drone展の一部として開催



Rev.1 2018-02-04

2018年3月23日

10:00-10:30	河村 幸二	(合)スパーパーポイントリサーチ 代表	3次元計測とドローンの世界動向
イントロ&世界の動向			ドローンの利用分野のひとつとして社会インフラや産業設備の3次元計測とそのデータを活用した改造・保守維持管理がある。世界の技術動向・市場動向について概説をおこなう。
10:30-12:00	村木 広和	国際航業(株)3Dセンシング事業部 副事業部長	UAVによる3D計測全般(空間情報のあるべき世界とは)
技術解説		1963年兵庫県龍野市生まれ。1982年から2006年7月までアジア航測株式会社、2006年8月から2014年12月まで株式会社イメージワン、2015年1月から国際航業株式会社(現在に至る)、1997年から1998年まで、大阪府立工業高等専門学校 非常勤講師。2005年から2006年間 早稲田大学理工学部 非常勤講師。2011年から2015年 中央大学理工学部 兼任勤講師(現在に至る)。2005年3月「デジタル測量への知識情報処理技術の適用に関する研究」にて関西大学博士(情報学)の学位授与。日本写真測量学会、日本測量協会に所属。	日本国内では、UAVを用いた「公共測量とi-Construction」が先行し、3次元点群を利用する分野として確立され始めている。当然、UAV本体、搭載センサー、解析ソフトと言った分野でそれぞれが目標を立て研鑽されている。UAV本体は、SLAM技術や各センサを利用した安全運用システムを追求し、搭載センサーは、高解像度化と高品質化を同時に開発し進化を遂げている。我々、利用側としてはハードの進化は専門化に任せ、取得されたデータの解析と利用に主眼を置いて日々、世界中の技術を検証し、日本市場での適用性を考察している。今回は、皆さんに今後の日本の空間情報のあるべき姿に関し、何か提起できればと思います。
13:00-14:30	山崎 広二	アジア航測株式会社 センシング技術統括部 計測技術モデレータ	
ドローンによるi-Construction			
	橋爪 卓	アジア航測株式会社 事業戦略部 i-Construction推進室	
			地滑り急傾斜地における工事用道路施工時でのi-Construction実証事例を紹介する。急傾斜地での測量は作業員に危険が伴う。危険箇所でのドローン計測の有効性と施工完了時の計測結果について紹介する。
	高藤 亨仁	株式会社みすず総合コンサルタント 常務取締役	
			2018年1月19日金曜日 12:52: レーザ搭載型のドローンを紹介する。比較的大型なドローンに搭載されたレーザスキャナは、直接対象地物、構造物を計測でき、樹木下にまで到達させることも可能である。今回はシステム全般の紹介と事例、特徴を紹介する。
	佐野 健彦	日本国土開発株式会社 土木事業本部 技術部	技術設計グループ課長
			i-Constructionという言葉が2015年に産声をあげてから2年が経過した。3次元データを活用した施工は、UAVの急速な普及によって実現できたといっても過言ではない。UAVは、写真測量などで多くの現場で活用され、今後も更なる発展が、産業全体で期待されている。施工CIMと連携したUAVの利用に関して、日本国土開発の施工事例を紹介する。
15:00-16:30	西村 正三	(株)計測リサーチコンサルタント 取締役 クリエイト事業部部長	UAVのSIPインフラ「社会実装」
社会インフラ点検		モデレータ UAVレーザや画像を用いた3Dモデル化技術を、世界文化遺産である「軍艦島」や「沖ノ島」、インフラのモニタリングに適用。 ・土木学会、日本写真測量学会、ほか ・博士(工学)、技術士(建設部門)、一級建築士、測	「インフラの維持管理に関する技術開発プロジェクトー以下SIPインフラ」は、2019年3月に終了する。SIPインフラで開発された技術には、橋梁等を安全で経済的に点検する「UAVなどの開発」や、情報を「3Dで一元化するシステム」の構築がある。現在橋長660mのPC長大橋梁を対象に、従来の橋梁点検車を用いた手法との比較検証を行い、「新技術を活用した橋梁点検仕様書」の作成などを行っている。
	春田 健作	京都府 京都技術サポートセンター 土木課 参事(共同発表)諸戸順子	
			京都府ではドローンをインフラメンテナンス、防災、広報と活用の幅を広げ、今では、拠点に配備し行政職員も操縦しています。ドローンの活用実態と改革、女性躍進事例を紹介します。
	鶴飼 尚弘	株式会社快適空間FC 代表取締役社長	UAVレーザシステムの現状と課題
			UAV測量向けLiDARの小型化・高性能化とソフトの充実で適用範囲が急激に広がってきました。さまざまなフィールドで活用されているUAVレーザシステムの現状と課題について紹介します。
	柴田 巧	NTT西日本 事業開発担当 主査	
			NTT西日本ではサーモカメラを搭載したドローンで太陽光パネル点検しています。数十の高圧・特高発電所での点検実績を踏まえ、今年度現場確認できた故障種別や故障率、費用対効果について紹介します。

連絡先: スーパーポイントリサーチ
河村 koji@sparj.com 045-482-3073